

平成 25 年 12 月期 第 3 四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成 25 年 10 月 25 日

上場会社名 株式会社ペッパーフードサービス 上場取引所 東
 コード番号 3053 URL http://www.pepper-fs.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 CEO (氏名) 一瀬 邦夫
 問合せ先責任者 (役職名) 管理本部 総務部長 (氏名) 猿山 博人 (TEL) 03(3829)3210
 四半期報告書提出予定日 平成 25 年 10 月 25 日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成 25 年 12 月期第 3 四半期の業績 (平成 25 年 1 月 1 日～平成 25 年 9 月 30 日)

(1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25 年 12 月期第 3 四半期	4,173	7.4	153	194.1	154	284.8	98	—
24 年 12 月期第 3 四半期	3,885	1.6	52	△29.6	40	△42.8	1	—

	1 株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25 年 12 月期第 3 四半期	34.62	34.41
24 年 12 月期第 3 四半期	0.41	0.41

(注) 平成 25 年 7 月 1 日を効力発生日として 1 株につき 100 株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1 株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額を算定しております。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25 年 12 月期第 3 四半期	1,715	403	23.3
24 年 12 月期	1,538	288	18.2

(参考) 自己資本 25 年 12 月期第 3 四半期 400 百万円 24 年 12 月期 280 百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第 1 四半期末	第 2 四半期末	第 3 四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24 年 12 月期	—	0.00	—	0.00	0.00
25 年 12 月期	—	0.00	—	—	—
25 年 12 月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成 25 年 12 月期の業績予想 (平成 25 年 1 月 1 日～平成 25 年 12 月 31 日)

(%表示は、通期は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1 株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通 期	5,777	10.3	267	156.6	275	191.2	209	—	73.44

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2. 平成 25 年 7 月 1 日を効力発生日として 1 株につき 100 株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、1 株当たり当期純利益金額については、当該株式分割の影響を考慮して記載しております。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 第1四半期より減価償却方法の変更を行っており、「会計方針の変更を会計上の見積りの変更と区別することが困難な場合」に該当しております。詳細は、添付資料P3「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（2）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年12月期3Q	2,866,000株	24年12月期	2,836,900株
② 期末自己株式数	25年12月期3Q	—株	24年12月期	—株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年12月期3Q	2,847,850株	24年12月期3Q	2,556,100株

(注) 平成25年7月1日を効力発生日として1株につき100株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して株式数を算定しております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する定性的情報	2
(2) 財政状態に関する定性的情報	3
(3) 業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第3四半期累計期間	6
(3) 継続企業の前提に関する注記	7
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	7
(5) セグメント情報等	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、経済対策及び金融政策の効果が期待され、家計所得や投資が増加傾向で景気回復基調にあるものの、海外経済を巡る不確実性は依然として高く、先行き不透明な状況が続きました。

外食産業におきましても、個人消費が持ち直しの傾向であるものの、円安による輸入価格や原材料価格の高騰、企業間における顧客獲得競争がより激しさを増し、依然として厳しい状況にあります。

こうした状況のもと、当社は更なる規模の拡大を目指し、新規業態の出店を積極的に行い、お客様の多様なニーズに応えるための新規メニューの導入などに取り組んでまいりました。また、円安による原材料価格の高騰への対策として、引き続き商品構成の見直しに取り組んでまいりました。

これらの結果、当第3四半期累計期間における業績は、売上高4,173百万円(前年同期比7.4%増)、営業利益153百万円(前年同期比194.1%増)、経常利益154百万円(前年同期比284.8%増)、四半期純利益98百万円(前年同期は1百万円の四半期純利益)となりました。

セグメントの業績は次のとおりです。

① ペッパーランチ事業

ペッパーランチ事業につきましては、7月に弘前ヒロロのフードコート内に「ペッパーランチ」として当期初のオープンを行いました。

「ペッパーランチダイナー」では、小岩駅前に「ペッパーランチ」からの業態変更としてオープン、夏季限定店舗(7月9日から9月8日まで)として湘南由比ヶ浜のエイバックスピーチハウスにオープン、長崎県佐世保のテーマパークであるハウステンボス内にオープンし店舗数は4店舗となりました。特にハウステンボスはテーマパークへの初の取り組みとなり、今後のテーマパークへの進出の足がかりとなる出店となりました。

「92'S(クニズ)」では、7月にイーアスつくば、8月にミスターマックス藤沢のフードコート内に「ペッパーランチ」からの業態変更としてオープンし、店舗数は6店舗となりました。

また、6月にオープンしたアメリカンキッチンアリオ上尾店に続き、9月にはハワイアンパンケーキの新業態「Ala Moana Cafe」をオープンし、パンケーキ業態としての店舗数は2店舗となりました。

マーケティング活動につきましては、夏季限定「ガーリックワイルドステーキ」の高単価・高付加価値商品の全店導入や、個店販促や、キャンペーンを定期的に行い、業績向上に努めてまいりました。さらに、主力商品の「ワイルドジューシカッツステーキ」、「サービスステーキ」の原材料であるチャックアイロールを独自の熟成方式確立により従来品に比べ、柔らかさ・味・香りを向上させ、品質面の改善に取り組んでまいりました。

海外におけるペッパーランチ事業は、現地の売上高及び新規出店に伴う加盟金収入の増加などにより、売上高は202百万円(前年同期比71.8%増)となりました。

この結果、ペッパーランチ事業全体の当第3四半期累計期間における売上高は3,060百万円(前年同期比6.2%増)、営業利益は485百万円(前年同期比29.9%増)となりました。

また、新規出店数は44店舗(うち海外30店舗)であり、店舗数は278店舗となりました。

② レストラン事業

レストラン事業につきましては、ステーキ業態「炭焼ステーキくに」、とんかつ業態「こだわりとんかつ かつき亭」、ハンバーグ業態「炭焼ビーフハンバーグステーキくに」、ヤングファミリー層を対象としたサラダバー付き業態「太陽の家族くに」、牛たんの専門業態「牛たん仙台なとり」の更なるサービス向上を徹底するとともに、業態や立地条件ごとにメニュー施策を行い顧客の満足度向上に努めてまいりました。

「炭焼ステーキくに」では、赤坂店、両国店にて、月1回継続的に異業種交流会「美味しいステーキを楽しく食べるタベ」を行い、ブランドイメージの向上を図ってまいりました。

「牛たん仙台なとり」では、4月にオープンしたイオンモール東久留米店に続き、柏駅前に「ペッパーランチ」から業態変更としてオープンいたしました。店舗数は2店舗となり、今後のフランチャイズ展開への大きな一歩を踏み出しました。

この結果、レストラン事業全体の当第3四半期累計期間における売上高は1,091百万円(前年同期比10.8%増)、営業利益は39百万円(前年同期比1.1%増)となりました。

また、新規出店数は3店舗であり、店舗数は19店舗となりました。

③ 商品販売事業

商品販売事業につきましては、「とんかつソース」、「冷凍ペッパーライス」及び「冷凍ハンバーグ」の販売において新規顧客の獲得を目指し、ネット販売を中心に行ってまいりました。

この結果、当第3四半期累計期間における売上高は21百万円(前年同期比11.3%増)、営業損失は5百万円(前年同期は5百万円の営業損失)となりました。

(2) 財政状態に関する定性的情報

当第3四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べて177百万円増加し1,715百万円になりました。これは主に、現金及び預金が188百万円増加したこと、売掛金が34百万円減少したこと、未収入金(流動資産・その他)が53百万円減少したこと、建物が73百万円増加したこと、車両運搬具(有形固定資産・その他)が16百万円増加したこと、無形固定資産が56百万円増加したこと及び敷金及び保証金が72百万円減少したことによるものです。

負債合計は、前事業年度末に比べて61百万円増加し、1,312百万円となりました。これは主に、買掛金が32百万円増加したこと、借入金が増加したこと、未払金が増加したこと、社債が43百万円減少したこと、受入保証金が14百万円減少したこと及び長期未払金(固定負債・その他)が増加したことによるものです。

純資産は、四半期純利益を98百万円計上したことなどから、前事業年度末に比べて115百万円増加し、403百万円となりました。また、自己資本比率は、前事業年度末に比べて5.1ポイント増加して23.3%となりました。

(3) 業績予想に関する定性的情報

平成25年7月11日に発表いたしました通期の業績予想につきましては、現在のところ変更はありません。詳しくは平成25年7月11日付「業績予想の修正に関するお知らせ」を御参照下さい。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期会計期間より、平成25年1月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

なお、これによる当第3四半期累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

3. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年12月31日)	当第3四半期会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	110,364	298,414
売掛金	280,952	246,645
商品	23,589	17,257
貯蔵品	20,252	20,292
繰延税金資産	5,500	5,500
その他	143,519	104,403
貸倒引当金	△4,956	△8,956
流動資産合計	579,222	683,557
固定資産		
有形固定資産		
建物	580,570	677,497
減価償却累計額	△323,064	△346,144
建物(純額)	257,505	331,352
その他	526,589	519,205
減価償却累計額	△426,330	△405,332
その他(純額)	100,258	113,872
有形固定資産合計	357,764	445,225
無形固定資産	12,496	69,096
投資その他の資産		
敷金及び保証金	563,243	491,142
その他	45,175	39,575
貸倒引当金	△20,356	△13,380
投資その他の資産合計	588,063	517,338
固定資産合計	958,324	1,031,660
繰延資産		
社債発行費	1,301	696
繰延資産合計	1,301	696
資産合計	1,538,847	1,715,914

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年12月31日)	当第3四半期会計期間 (平成25年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	444,582	476,613
短期借入金	47,200	83,400
未払金	88,752	115,803
未払法人税等	38,870	27,159
賞与引当金	—	4,999
資産除去債務	14,627	2,378
その他	175,877	195,391
流動負債合計	809,910	905,748
固定負債		
社債	84,000	40,800
受入保証金	304,550	289,625
繰延税金負債	6,418	7,960
資産除去債務	43,231	42,971
その他	2,596	24,965
固定負債合計	440,795	406,323
負債合計	1,250,705	1,312,071
純資産の部		
株主資本		
資本金	707,000	715,994
資本剰余金	663,556	672,550
利益剰余金	△1,090,281	△991,691
株主資本合計	280,275	396,853
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△220	3,173
評価・換算差額等合計	△220	3,173
新株予約権	8,087	3,815
純資産合計	288,141	403,842
負債純資産合計	1,538,847	1,715,914

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)	当第3四半期累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)
売上高	3,885,000	4,173,139
売上原価	1,946,764	2,049,229
売上総利益	1,938,235	2,123,909
販売費及び一般管理費	1,885,990	1,970,267
営業利益	52,245	153,642
営業外収益		
受取利息	210	132
受取配当金	80	88
受取賃貸料	3,912	3,890
協賛金収入	6,173	7,291
その他	1,984	2,232
営業外収益合計	12,360	13,635
営業外費用		
支払利息	3,591	1,627
社債利息	2,076	1,462
株式交付費	—	3,226
貸倒引当金繰入額	15,799	—
その他	2,867	6,020
営業外費用合計	24,334	12,337
経常利益	40,270	154,940
特別利益		
固定資産売却益	4,890	2,408
新株予約権戻入益	1,153	—
特別利益合計	6,044	2,408
特別損失		
固定資産売却損	—	896
減損損失	13,488	11,518
訴訟関連損失	—	5,838
その他	2,907	1,889
特別損失合計	16,395	20,142
税引前四半期純利益	29,918	137,207
法人税、住民税及び事業税	29,474	38,831
法人税等調整額	△626	△214
法人税等合計	28,848	38,616
四半期純利益	1,070	98,590

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

前第3四半期累計期間(自 平成24年1月1日 至 平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注1)	四半期損益 計算書計上額 (注2)
	ペッパーランチ 事業	レストラン事業	商品販売事業			
売上高 外部顧客へ の売上高	2,880,396	985,634	18,969	3,885,000	—	3,885,000
計	2,880,396	985,634	18,969	3,885,000	—	3,885,000
セグメント利益 又はセグメント 損失(△)	373,908	38,806	△5,960	406,754	△354,509	52,245

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△354,509千円は、各報告セグメントに配分していない
全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「ペッパーランチ事業」及び「レストラン事業」において、当第3四半期累計期間に営業活動から生ずる損益が著しく低下した店舗等について、当該店舗の資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期累計期間においては「ペッパーランチ事業」1,256千円、「レストラン事業」12,232千円であります。

当第3四半期累計期間(自 平成25年1月1日 至 平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注1)	四半期損益 計算書計上額 (注2)
	ペッパーランチ 事業	レストラン事業	商品販売事業			
売上高 外部顧客へ の売上高	3,060,255	1,091,775	21,107	4,173,139	—	4,173,139
計	3,060,255	1,091,775	21,107	4,173,139	—	4,173,139
セグメント利益 又はセグメント 損失(△)	485,645	39,235	△5,124	519,756	△366,113	153,642

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△366,113千円は、各報告セグメントに配分していない
 全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「ペッパーランチ事業」及び「レストラン事業」において、当第3四半期累計期間に営業活動から生ずる損益が著
 しく低下した店舗等について、当該店舗の資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損
 失として特別損失に計上いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期累計期間においては「ペッパ
 ーランチ事業」10,210千円、「レストラン事業」1,308千円であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社はこれまでステファングリルのセグメント区分を「レストラン事業」としておりましたが、第1四半期会計期
 間の組織変更に伴い、「ペッパーランチ事業」に変更しております。これに伴い共通経費の配賦についても一部見直
 しております。

なお、前第3四半期累計期間に開示している金額は、変更後の区分方法により組替えたものを記載しております。

また、会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更に記載のとおり、法人税法の改正に伴い、第
 1四半期会計期間より、平成25年1月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価
 償却の方法に変更したため、報告セグメントの減価償却の方法を改正後の法人税法に基づく方法に変更してありま
 す。なお、これによる当第3四半期累計期間のセグメント利益に与える影響は軽微であります。